

朴 珠 抄

能村研三推薦

鉄橋は大きな楽器山笑ふ
なんとなくこのままでいい春愁
老ゆるとは残さるること花薺
きさらぎと文にさらさら書く夜なり
春泥や考へてゐる母の杖
水底にゆるき砂紋の日永かな
忘れられ朧あづけの長梯子
あの頃といふは良きころ桜餅
夜の雪の過去に降り積むごと静か
さへづりの草木ごとに譜をたがへ
高きより高みへ囀り移りゆく
人はみな母より生まれ春月夜
ひとひらといふがふさはし春の蝶
春風に追ひかけられて漕いでゐる
岐路いつも花時にあり今があり

今瀬 一博
峰崎 成規
能美 茅柴
荒井千佐代
七種 年男
平松うさぎ
甲州 千草
栗原 公子
須賀ゆかり
荒井千瑳子
松倉 聖子
清水 陽子
金光 浩彰
宮坂 秋湖
永津 国明